



# 『ヴァレリアン』に見る SF大作のエッセンス

## そして2018年— 最強最大の SFエンタテインメント誕生!

「レオン」「LUCY／ルーシー」などのヒット作を手掛けた名匠リュック・ベッソン。彼の最新作はフランスの伝説的コミック「ヴァレリアンとローレリーヌ」シリーズを、仮想画史上最大のスケールで映像化したSFアドベンチャー大作だ。銀河をパトロールする青年ヴァレリアンと美しい相棒ローレリーヌの活躍を描いた原作は半世紀にわたり愛され続けており、ベッソンは原作者ジャン＝クロード・メジエールを「フィフス・エレメント」のコンセプトデザイナーに招聘したほどの大ファン。当時は「異星人の描写が困難」という理由で諦めていた映画化が、ジェームズ・キャメロン監督の「アバター」にも見られるCGの進化もあと押しとなり実現した。

△ ミュールに生息した固有種  
コンバーター  
**ミュール変換器**

有能な連邦捜査官  
**ヴァレリアン**  
(デイン・デハーン)

宇宙をパトロールするエージェント。  
私生活はブレイボーイで、ローレリーヌを口説き続けている。

「スター・ウォーズ」シリーズ



1977～

1967年に連載が始まった「ヴァレリアン～」の原作コミックと77年より公開の「スター・ウォーズ」シリーズは類似点が見られ、ジョージ・ルーカス(写真)が同書を着想のヒントにしたのでは?と言われる。

1997

「フィフス・エレメント」



©MovieStore Collection/Foto

ベッソンがジェームズ・キャメロンに招かれて「アバター」の製作スタジオを見学した際、CGの進化を目撃した際にし、技術的な理由で一度は諦めた「ヴァレリアン～」の実写化がいまならできると確信した。

「アバター」



2009

©Everett Collection/アフロ

ベッソンがジェームズ・キャメロンに招かれて「アバター」の製作スタジオを見学した際、CGの進化を目撃した際にし、技術的な理由で一度は諦めた「ヴァレリアン～」の実写化がいまならできると確信した。

2014



©PictureLux/アフロ

脳細胞を100%覚醒させた女性の戦いを描いたアクション。刻々と状況が変わるスリリングな展開、覚醒をCGで表現したスタイルッシュな演出は、ヴァレリアンたちの活躍を鮮やかに見せる術として躍進。



連邦政府司令  
**フィリット司令官**  
(クライヴ・オーウェン)

△ ヴァレリアンの追跡機  
**スカイジェット**  
LEXUSデザインによる  
一人乗り宇宙船

△ 愉快な情報屋トリオ  
**トーガン=ダギーズ**

△ ショーパップダンサー  
**バブル**  
(リアーナ)

△ ミュール星の平和的種族  
**パール人**

このコミックから影響を受けたのはベッソンだけではない。巨匠ジョージ・ルーカスの「スター・ウォーズ」シリーズにも「ヴァレリアン」の世界観に近いビジュアルが多いことは有名で、両作の比較・考察などもインターネット上で見受けられる。SF大作もリスペクトする、いわばスペース・オペラの原点。胸躍る宇宙の冒險物語、個性豊かな異星人たち、遊び心が詰まったガジェットなどSFファンタジーのエッセンスが凝縮された必見作である。

△ ヴァレリアンの相棒  
**ローレリーヌ**  
(カラ・デルヴィニュ)

クールビューティな捜査官。宇宙船操縦や格闘術に秀でている。  
ヴァレリアンの求愛に呆れぎみ?

△ ショーパップの客引き  
**ジョリー**  
(イーサン・ホーク)

(イーサン・ホーク)

△ 連邦政府司令  
**フィリット司令官**  
(クライヴ・オーウェン)

△ ヴァレリアンの追跡機  
**スカイジェット**  
LEXUSデザインによる  
一人乗り宇宙船